

「あびき」って知っていますか？

～気象台が発表する潮位情報にご注意ください～



「あびき」とは、海面が短時間のうちに昇降を繰り返す現象です。大きなあびきは、船舶の転覆、係留物の流出、家屋への浸水などの被害を伴うこともあります。



岸壁冠水の様子

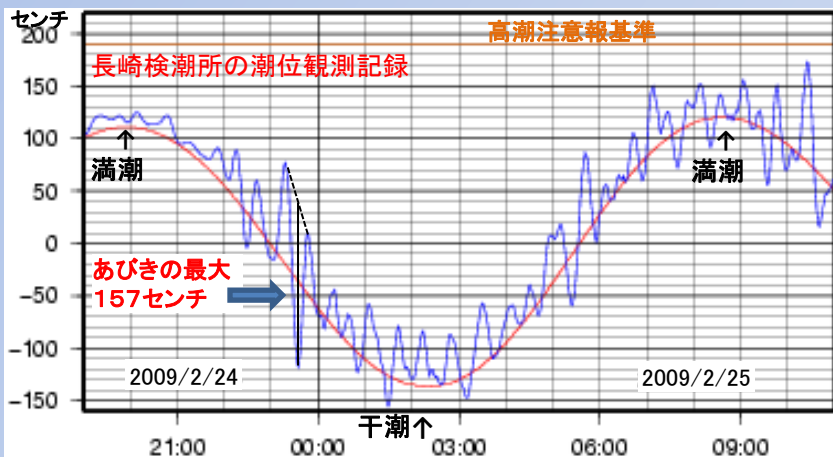


急激に潮が引く様子



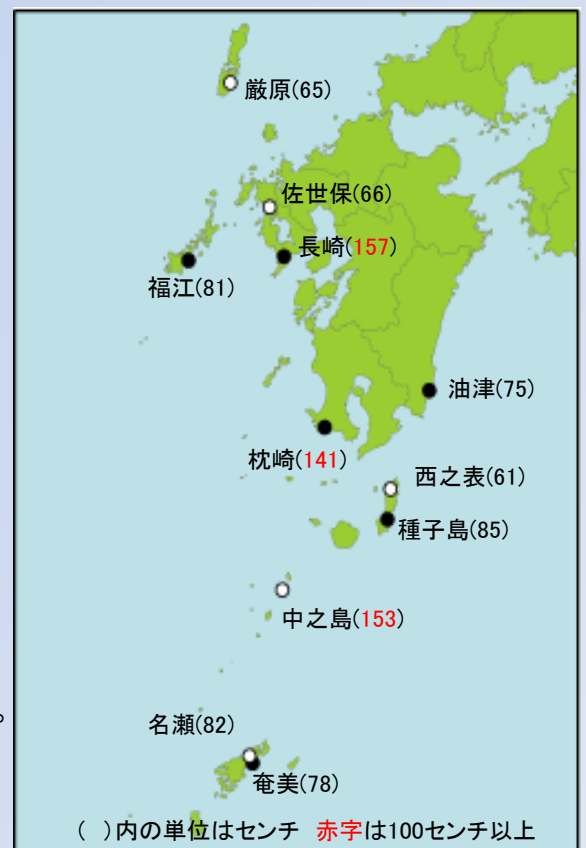
最も潮が引いた様子

上の3枚の写真は、2009年2月に九州西岸で発生したあびきの様子で、鹿児島県上甕島小島漁港で2月25日朝に撮影されたものです(左上は撮影時刻)。海面が7分間に2.9メートルも急激に変化したことで小型船舶の転覆等の被害がありました。(写真提供:薩摩川内市役所上甕支所)



上のグラフの青い線は、2009年2月24日から25日にかけて長崎港で観測されたあびきの波形です。赤い線は平常の潮位(天文潮位)で、山は満潮を、谷は干潮を表します。

右の図は、この時に各地で観測されたあびきの最大全振幅です。このように九州西岸から奄美大島にかけて広範囲に大きなあびきが観測されました。

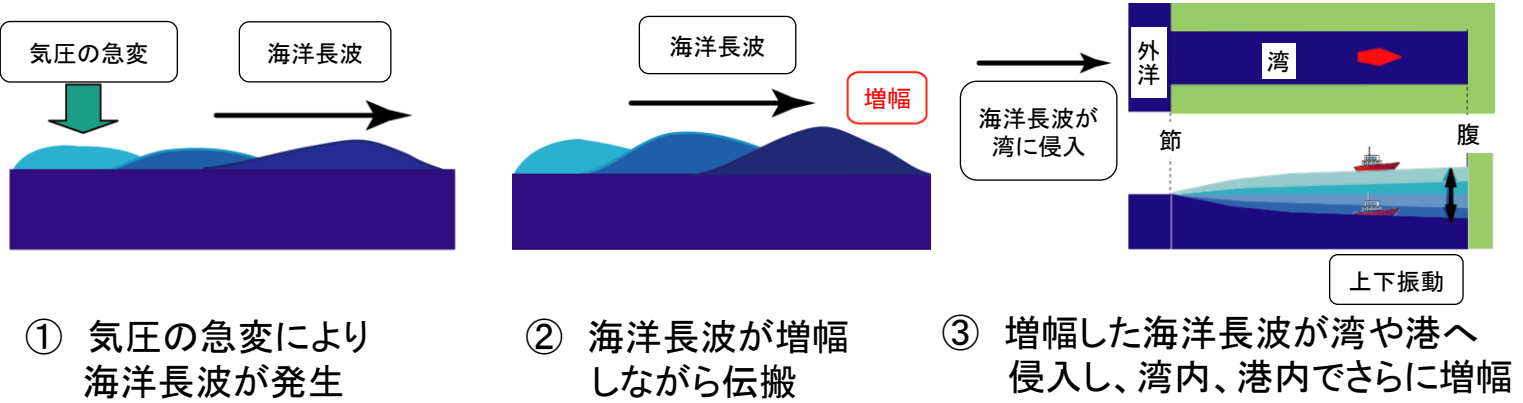


●は気象庁、○は海上保安庁の検潮所



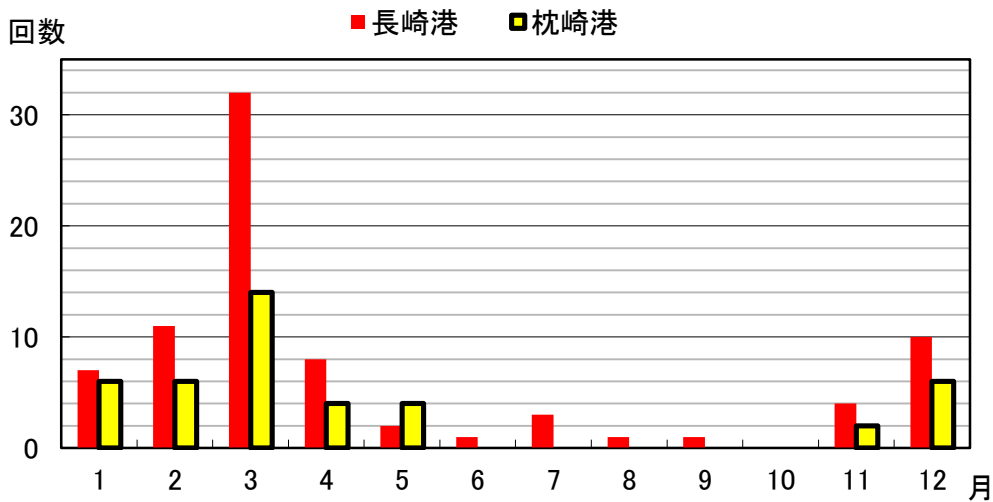
「あびき」はなぜ起きる？

沖合での気圧の急変によって発生した、水深に比べ波長の長い波（海洋長波）が、増幅しながら湾や港に侵入することにより、大きなあびきが起きると考えられています。地形や水深が一つの要因であることから、過去に被害が発生した場所は大きなあびきが発生しやすく、特に注意が必要です。



「あびき」が発生しやすい季節は？

100センチを超える大きなあびきの発生は、そのほとんどが冬から春にかけての季節に多いことが分かっています。長崎港や枕崎港では特に3月の発生回数が多くなっています。



長崎港と枕崎港における全振幅100センチ以上のあびきの発生回数
統計期間：昭和36年(1961年)～平成26年(2014年)

気象台の発表する情報をご利用ください

大きなあびきが続く時は、地元気象台が潮位に関する情報を発表します。大きなあびきが発生すると、強い流れや、急な潮位の上昇・下降が繰り返し発生しますので、湾内や港付近では注意してください。



宮崎地方気象台

〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島5丁目1-4 電話 0985-25-4031

ホームページアドレス：<http://www.jma-net.go.jp/miyazaki/index.html>